

令和6年度 京都府立大学地域貢献型特別研究（府大 ACTR）成果概要報告書

分類 番号	1	取組 名称	文化遺産の記録化・記憶化による地域未来の創出に関する実践的研究
研究代表者所属・職名：		文学部・准教授	氏名： 諫早 直人
研究担当者：			
京都府立大学（菱田哲郎、仲林篤史（敬称略）） 外部分担者・協力者（栗山雅夫氏、塚本敏夫氏、奥勇介氏、岸本卓也氏、松尾史子氏ほか）			
主な連携機関（所在市町村、機関（部署）名）			
京丹後市教育委員会、京丹後市久美浜町須田区自治会 など			
【研究活動の要約】			
本研究は、以下の三つのサブプロジェクトを柱として進めました。			
A. 須田平野古墳の発掘調査と記録化・記憶化			
昨年度に着手した須田平野古墳の発掘調査を継続し、地域資源化のための基礎情報を取得しました。			
B. 調査成果のコンテンツ化、可視化			
これまでACTRなどで進めてきた調査成果をまとめ、京都府立大学文化遺産叢書を刊行しました。			
C. 須田区・高龍小学校との連携、調査成果の広域発信			
地元の高龍小学校5年生を対象に、大学生が主体となって発掘調査体験などの連携授業をおこないました。また、京丹後市教育委員会との共催で第4回 ACTR 成果報告会を開催しました。			
【研究活動の成果】			
以下のような取り組みを通じて、古墳という文化遺産の学術資源化と地域資源化を一体で進めていき（文化遺産の記録化）、地域住民、とりわけ文化遺産の未来を担う子供たちに体験を通じてその価値を伝え、共有することで（文化遺産の記憶化）、地域に眠る文化遺産を地域住民自らが「地域資源」として認識し、将来にわたって持続的に活用していくための基盤を整えました。			
【文化遺産の記録化】			
3月に京丹後市役所久美浜庁舎で第4回 ACTR 成果報告会を開催し、調査研究で得られた最新の知見を広く発信しました。またこれまでの調査研究で得られている成果をまとめ、『京都府立大学文学部文化遺産叢書 第33集 地域資源としての湯舟坂2号墳』（A4版、286頁）として刊行しました。			
【文化遺産の記憶化】			
9月に須田平野古墳の発掘調査を昨年度に引き続き、京丹後市教育委員会と共同で実施しました。また調査期間中には高龍小学校5年生を対象とする発掘体験授業をおこなうなど、得られた学術成果を速やかに地域住民と共有することに努めました。			
【研究成果の還元】			
R6.9 須田平野古墳発掘調査現地説明会 約30名。高龍小学校5年生を対象とする発掘体験授業。			
R7.3 京丹後市役所久美浜庁舎 第4回 ACTR 成果報告会 約80名			
R7.3 『京都府立大学文学部文化遺産叢書 第33集 地域資源としての湯舟坂2号墳』			
『地域資源としての湯舟坂2号墳 IV—飛鳥時代史の中の湯舟坂2号墳— 発表資料集』			
『京都府立大学文学部歴史学科 フィールド調査集報』第11集（いずれも府大図書館などで閲覧可）			
【お問い合わせ先】		文学部歴史学科 考古学研究室 准教授・諫早直人	E-mail: isahaya@kpu.ac.jp

参考（イメージ図、活動写真等）



『京都府立大学文学部文化遺産叢書 第33集』表紙



第4回 ACTR 成果報告会ポスター



須田平野古墳での発掘体験授業の様子



第4回 ACTR 成果報告会の様子